

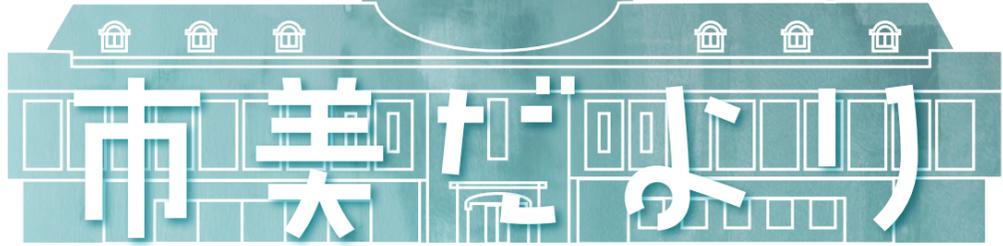
鹿児島市立美術館開館70周年記念 松本市美術館所蔵

## 草間彌生版画の世界 - 反復と増殖 -

2024 9/27 (金) ~ 11/10 (日)

長野県松本市出身の世界的前衛芸術家、草間彌生は、国内での制作・発表を経て、1957年に渡米し、ネットペインティング（無限の網）、アキュムレーション（集積）、ソフトスカルプチャーなどの先駆的な表現によって、ニューヨークで高い評価を受けます。その後、鏡や電飾を使ったインスタレーションを発表、また、ボディ・ペインティングなど数多くのハプニングも行いますが、1973年に帰国し、制作活動の場を東京に移します。1993年第45回ヴェネチア・ビエンナーレに日本を代表する作家として世界の舞台に立った草間が、その前段で積極的に版画に取り組んだことも、現在の評価に繋がる大きな原動力となりました。アメリカから帰国後のカラーシュやオブジェに込められた死への恐れや苦悩を全面に押し出した作品とは対照的に、1979年から発表をはじめた版画作品には、南瓜、ドレス、花などの華やかなモチーフが色彩豊かに表現されています。常同反復による網目や水玉の増殖が創作活動の根幹にあった草間と複製芸術である版画の必然的な結びつきは、450種、3万部にも及びます。本展は、その中の版画作品から厳選された160点を展示します。草間彌生の版画芸術の魅力とその軌跡をお楽しみください。

2024年 秋号  
No.30



鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館

〒892-0853

鹿児島市城山町4番36号

TEL(099)224-3400



## 無料開放日のお知らせ

毎月第3日曜日は、小・中学生は無料開放日です。所蔵作品展 + 小企画展を無料で鑑賞いただけます。

10月20日(日)

11月17日(日)



## 《ピックアップ》所蔵品紹介



月岡 芳年《西南西郷星之図》1877年

月岡芳年（1839 - 1892）は、西洋画の写実性を取り込みながら、浮世絵の歴史に鮮烈な足跡を刻み「最後の浮世絵師」といわれています。歌川国芳に学び、15歳の時に、歴史画でデビュー。武者絵や美人画、さらに錦絵新聞の分野でも活躍しました。浮世絵は江戸期から情報メディアとしての役割をもっていました。明治になって、定期性と迅速性のある日刊紙に役割は移行します。その日刊紙から大衆好みのネタを選び浮世絵版画の形式で発行されたのが錦絵新聞です。



会場風景  
2階所蔵品展示室

## 秋の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

### ミニ特集：草間彌生と交流のあった作家たち 会期：12月1日(日)まで

当館のコレクションを紹介する所蔵品展では、黒田清輝をはじめとする鹿児島ゆかりの作家の作品、そして20世紀を中心とした西洋美術の流れをたどる作品をご覧ください。また今回は、特別企画展「鹿児島市立美術館開館70周年記念 松本市美術館所蔵 草間彌生版画の世界—反復と増殖—」の開催にちなみ、当館所蔵品の中から草間彌生と交流のあった作家の作品をご紹介します。

草間彌生は、幼い頃から悩まされた幻覚や幻聴を克服するために絵画制作をはじめ、1957年に単身渡米してからは16年に亘る現地での創作活動のなかで世界的な前衛芸術家として注目を集めるようになりました。1960年代ニューヨークのアートシーンで活躍した草間は、同時代の名だたる作家たちとも交流を持ちました。その中には当館の所蔵作家も複数含まれています。例えば、草間が「好ライバル」と呼んだアンディ・ウォーホルとは仕事場も近く、作品の反復性に共通点がみられます。また、ルーチョ・フォンターナとは1965年にオランダで共にグループ展を開催し、同年代のフランク・ステラは草間の作品を購入、サルバドル・ダリとは親しい飲み仲間だったようです。そして、抽象画家として国際的に活躍した山口長男とも、1960年にグループ展を開催しています。

互いに交流を持ちながら、新しい表現を求めて切磋琢磨した彼らの表現を、この機会に改めてお楽しみください。

1877（明治10）年に起こった土族の反乱・西南戦争は、全国的に注目を集め、大判の多色摺り木版画・錦絵新聞が多数制作されました。絵師たちは新聞報道に工夫を凝らし、現実と想像を織り交ぜた描写で人々の好奇心をかき立てたのです。

同年9月10日に出版された『西南西郷星之図』もその一つ。当時、地球と火星が大接近し、赤く輝く大きな星が南の空に観測されるようになりました。人々はこの星に西郷の姿を重ね、「西郷は生きながら星になった」、「星は騒乱の世に出現する彗星だ（彗星=ほうき星の「ほうき」を「蜂起（ほうき）と掛けている）」など、さまざまにうわさしたのです。※この作品は、鹿児島市立美術館 秋の所蔵品展で12月1日まで展示しています。